

[ 横浜にぎわい座 ]  
 平成 28 年度業務計画及び収支予算  
 [ 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 ]

- ※ 文中の事業欄において、  
 ●：主催事業。○：共催事業  
 を示します。  
 ※ 文中の達成指標欄において、  
 □：定量的指標。■：定性的指標  
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所在地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上13階建の地下2階から地上4階及び地上5階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 4358.97㎡
開館日	平成14年4月13日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで

3 指定管理に係る業務方針

(1) 基本的な方針

<p><b>【目指す姿、果たすべき役割】</b></p> <p>今後5年間の目指す姿を“大衆芸能が後世に受け継がれ、横浜にぎわい座が市民に愛され、その運営や事業を通じて市民生活や地域を活性化していること”、果たすべき役割を“あらゆる市民に対して、大衆芸能の持つ魅力や可能性を様々な手法を通じて働きかけること”としました。</p> <p>にぎわい座の運営を担うことで、地域の活性化や、特色ある興行を目的とした来浜(=文化観光)促進などに取り組みます。大衆芸能は世代を越えて共に楽しめるジャンルです。アウトリーチなどを通じて高齢者の健康やコミュニティの活性化に資する事業を開発し、子どもについては学校教育との連携を図ります。大衆芸能はユーモアとニュアンスを含んだ豊かな日本語に触れる機会でもあり、このような特色を活かし、子どもたちのコミュニケーション力の向上や世代間交流にもつなげます。にぎわい座の運営を通じて、大衆芸能を後世に継承し、その豊かな可能性を現代社会に十分に活用していくことで、横浜の魅力を高め、芸術文化を通じた市民生活の向上に貢献します。</p>
--

## (2) 28年度の業務の方針及び達成目標

第三期提案で示した基本的な方針及び業務計画を確実に実施することで、経続的な運営を可能とし、大衆芸能を後世に継承する活動に繋がります。第二期の課題であった収支の問題については、これまでの課題を元に事業計画を再作成し、安定した事業が実施できる体制を整えます。

### ① 文化事業について

鑑賞者を増やし安定的に経常公演を実施するために、公演運営の改訂や広報発信の強化、新たな観客創造・誘客・販売促進に取り組みます。アウトリーチやワークショップなど市民が参加する事業や、子どもが大衆芸能を通じて日本の文化に触れることができる機会の充実も図ります。

大衆芸能全般への関心が高まるような情報を提供し、事業の広報では来館経験のない層や若者に訴求します。

また事業を通じて地域を盛り上げ、その魅力を伝えていくとともに、公的施設として市民の参画を促し、多くの方に支えていただくために市民サポーター制度に着手します。

芸術アクション事業（音楽）など市の文化施策事業や財団施設・グループ、近隣文化施設との連携を積極的に推進します。

### ② 施設運営について

貸館サービスの充実と利用促進により、施設利用率を向上させます。舞台に関する専門的な対応やアドバイスを提供することで利用者の満足度を上げ、再利用につなげます。

第三期提案の実行や課題解決を可能とする適材適所の職員配置を行います。平成 27 年度に指定した大衆芸能の専門人材の育成を引き続き行い、他の職員も OJT や研修参加、資格取得奨励等により、能力と経験を向上させます。

### ③ 施設管理について

利用者・来館者に安心して使っていただけるように管理に万全を期します。省エネルギー対策に取り組みつつ、快適性や非日常性を損なわずに、「また来たくなる施設」と感じていただけるように配慮します。

### ④ 収支について

施設利用率の向上や新たな料金設定による増収のほか、入場者数を増やして自主事業収入を増収させます。事務費、光熱水費の節減を図りながらも、経年劣化による修繕や機材更新の優先度を的確に判断し、効果的に経費執行します。事業収入の回復を中心に、指定管理料のみに依存しない収入構造を作り、健全な施設経営を実現します。

## 4 業務の取組と達成指標

### (1) 文化事業について

#### ア 大衆芸能の公演、講座その他の事業の企画及び実施

##### [目指す成果]

- ・毎月 1 日から 15 日の経常公演をこれまでの実績を活かして確実に実施し、事業の基軸とします。寄席形式公演を「横浜にぎわい寄席」としてリニューアルし、発信性と親しみやすさを高め、落語や寄席に馴染みのない層にもアピールして、観客数を増やします。
- ・「垣根なく誰もが出られる演芸場」として、所属団体・流派に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民の大衆芸能に対するニーズに応える公演を開催します。

- ・「将来の名人を育てる道場」として若手育成を継続的に実施します。
- ・学校教育と連携し、大衆芸能の鑑賞・体験を通じて、子どもの創造性や感性を育みます。市民に向けてはファンに限らず幅広い層に当館を知っていただき、将来の観客創造につなげます。

[取組内容]

◇幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等の企画・実施

経常公演事業

- ① 毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催。
- ② 所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容。
- 「横浜にぎわい寄席」(毎月7回)  
『有名会』をリニューアル。落語と多彩な色物で寄席の芸と雰囲気を楽しめる公演。学割や子ども料金を新設し、新しい観客を招きます。
- 「名作落語の夕べ」(毎月1回)  
古典落語を4人の真打がネタ出しで口演する、落語の名作をじっくり楽しめる公演。
- 企画公演(毎月8回程度)  
落語・漫才・コントから喜劇や軽演劇等まで、幅広くバラエティに富んだ大衆芸能公演を日替わりで開催。
- 開館15周年記念事業(平成29年度)

◇創造的で発信性のある取組みの実施

- ① 創造・挑戦的な取り組み
- 企画公演(毎月8回程度)…再掲  
ネタおろしや新作の発表やシリーズ公演の実施。にぎわい座ならではの公演を実現。
- のげシャレー公演  
小ホールの小劇場的空間を活かした落語、漫才、コントなどの公演や異色のコラボレーシ

[達成指標]

経常公演事業

- 年間 200 公演以上開催。
- 合計入場者 月平均 3,170 人以上。
- 「横浜にぎわい寄席」へのリニューアル実施、料金体系の変更、リニューアルキャンペーンの実施。
- 「横浜にぎわい寄席」有料入場者平均90人以上。
- 横浜芸術アクション事業(音楽)開催年に合わせ、大衆芸能分野の音楽公演を開催。
- 開館 15 周年記念事業の企画制作、平成 29 年 4 月または 5 月に実施。
- 演芸の歴史的な変遷を紹介する新しい企画公演を開催。
- 講談と落語のコラボレーションなどにぎわい座オリジナル公演を開催。
- 年間 10 公演以上開催。

<p>ョンなど。</p> <p>○近隣文化施設や団体との連携による新しい舞台作品の創造</p> <p><b>◇若手実演家育成の仕組作りと実践</b></p> <p>●「登竜門シリーズ in のげシャレー」 小ホールで開催する若手芸人が研鑽を積むシリーズ公演。</p> <p><b>◇鑑賞者の拡大を図る取組、事業を支える仕組みの構築</b></p> <p>●市民ニーズの把握と公演および施設運営への反映</p> <p>●観客創造事業「大人のための寄席体験&amp;交流プログラム」 寄席の楽しさを知るトーク付きの落語会と演者を囲んでの交流会。</p> <p>●貸切公演 団体からの要請に基づいて貸切公演を開催し、新規顧客を開拓、リピート鑑賞につなげる。</p> <p><b>◇市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動支援</b></p> <p>●寄席文化体験 紙切りや寄席文字など寄席に因んだワークショップ。</p> <p>○ジャズ講座 横浜の街とジャズの楽しさを知る講座。横浜ジャズプロムナード実行員会との共催事業。</p>	<p>□個性的なロケーションでの落語会の実施1回以上。</p> <p>□大衆芸能とジャズのコラボレーション公演1回以上。</p> <p>■YAF チャンネルと協働して、公演プロモーションやアーカイブ化を実施。</p> <p>□年間20回以上の開催。</p> <p>□入場者平均100人以上。</p> <p>□アウトリーチ事業への起用5回以上</p> <p>□経常公演での起用5回以上。</p> <p>□全公演でのアンケートの実施</p> <p>□市民サポーター等による公演モニタリングの実施4回以上。</p> <p>□2回以上開催、合計参加者160名以上、うち初来館者60%以上。</p> <p>□貸切公演6回以上開催、貸館主催者の満足度4以上。</p> <p>□2講座以上の開催、受講者50名以上。</p> <p>□ジャズ講座を機会にした初来館者20人以上。</p>
--	--

<p>○「野毛まちなかキャンパス」 野毛やその周辺の魅力を掘り起こす社会人向け大学講座に大衆芸能のコンテンツで参加。野毛地区街づくり会、横浜商科大学との共催事業。</p> <p>●バックステージツアー 普段知る機会の少ない舞台裏を、寄席を楽しむミニレクチャーを交えて紹介。</p> <p>●アウトリーチ 施設への来館が難しい方向けや個性的なロケーションでの実演で大衆芸能の楽しさを届ける館外活動。28年度は「障がい者福祉」を重点テーマに、福祉施設やNPOと協働で実施。</p> <p>◇子どもの創造性育成の取組み</p> <p>○寄席体験プログラム（6回） 近隣の小学生が落語鑑賞と寄席独特の鳴り物などを体験する公演。公益社団法人落語芸術協会との共催事業。</p> <p>●横浜市芸術文化教育プラットフォーム 「学校プログラム」 市立学校に出かけて行うアウトリーチ事業。</p>	<p>□講座の共催開催2回以上、 会場提供3回以上、 職員の講師派遣2人以上。</p> <p>□子ども向け1回以上開催、 一般向け2回以上開催、 団体向けオンデマンド開催5回以上開催。</p> <p>□障がい者施設での実施3回以上、 若手育成事業の芸人起用5回以上、 アウトリーチ先の新規開拓2施設以上。</p> <p>■市民サポーター協働のモデル事業としての実施。</p> <p>□参加児童1,800人以上。</p> <p>■事業の実施効果を高めるための教員向け講座の事前開催。</p> <p>□コーディネート3校以上。</p> <p>■事業の実施効果を高めるための教員向け講座の事前開催。</p>
---	--

イ 大衆芸能に関する情報の収集及び提供

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆芸能に関する多様な情報を収集し、適切に提供することで大衆芸能の魅力を広く伝えます。この分野の専門施設として相談や各種照会に対応し、市民ニーズに応えます。</li> <li>・自主事業は、公演毎に訴求ターゲットを意識してデザインや使用ツールを改訂し、新たな鑑賞者やファンを獲得します。</li> <li>・展示事業は、大衆芸能を紹介するものに加え、地元団体や近隣施設との連携も交えて実施し、より多くの市民に足を運んでいただく機会とします。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <p>情報収集および提供</p> <p>●公演情報の収集</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■より分かりやすく手に取りやすい配架方法に</p>

<p>大衆芸能公演や市内の文化事業のチラシ、ポスターを配架。</p> <p>●公演記録の活用 過去の公演記録を活用し、大衆芸能のアーカイブ化と継承に活用。</p> <p>●情報提供、相談対応 専門施設として外部からの相談に対応。</p> <p><b>広報</b></p> <p>●広報、ホームページ、情報発信 チラシ、ポスター、ホームページ及び SNS 等により、公演情報を提供。</p> <p>●メディア懇談会 記者や編集者を対象にした懇談会を開催し、活動を紹介</p> <p><b>展示事業・館内演出</b></p> <p>●展示事業 2階展示コーナーで常設展、企画展、特別展を開催。</p> <p>●館内装飾</p>	<p>変更。</p> <p>■自主公演チラシラックには「スタッフのお薦めコメント」を付けて、親しみやすさを付加。</p> <p>□電子大福帳にすべての公演情報を入力。年間220件以上。</p> <p>■「名作落語のタベ」過去162公演分の上演演目をホームページ上で公開。</p> <p>■自主事業で特にアーカイブ化が必要とされる公演を選定し、映像を公開。</p> <p>□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート業務20件以上。</p> <p>□新たにWEB会員を募り、メールマガジンを年間10回以上配信。</p> <p>□Twitterを年間400回以上配信。</p> <p>■Twitterは公演や開館案内だけでなく、地域の行事や大衆芸能に関するミニ知識など多彩な内容で配信。</p> <p>■チラシは公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用。</p> <p>■「横浜にぎわい寄席」のリニューアルキャンペーンを利用して、にぎわい座全体の全市的な広報を実施。</p> <p>□1回以上開催。</p> <p>□企画展として「中島修展」のほか、写真展や寄席文字展など4回以上開催。</p> <p>□市民団体や近隣施設と連携した特別展を2回以上実施。</p> <p>■常設展も解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上。</p> <p>□季節の館内装飾は年間6回以上展示替え。</p>
---	---

<p>エントランスほかに季節の装飾等を行い、来館の楽しさを高め、ホスピタリティ向上。</p>	<p>□市内のアーティストと連携した館内装飾を1回以上実施。</p>
--	------------------------------------

ウ 街のにぎわいづくりへの寄与

<p>[目指す成果] 地域の活性化を目的に、「野毛地区街づくり会」ほか地域の団体の活動に協力し、街のにぎわい創りに貢献します。</p>	
<p>[取組内容] ●野毛地区の飲食、物販業と連携したプロモーション活動。  ●公演鑑賞と飲食の楽しみで相乗効果を図る取組の実施。  ○野毛地区主催のイベントへの協力  ●MM21 地区からの誘客</p>	<p>[達成指標] ■野毛地区飲食業協同組合の「野毛通手形」（飲み歩きクーポン）に参加。  ■にぎわい座公演チケット提示で飲食店でサービス提供が受けられるタイアップ実施。 ■大規模合コン「街コン」に参加し、若い新規来館者を獲得し、野毛への誘客も実現。  □野毛地区街づくり会内設置の「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施5公演以上。 ■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力。  ■MM21 地区の就業者の交流団体（MMcc、かもめスクールなど）向けにイベント実施し、野毛への誘客を実現。イベント実施3回以上。</p>

エ 市民と大衆芸能をつなぐ取組

<p>[目指す成果] 地域に根差した施設として、多くの市民の方に支えていただく仕組みとして新たに市民サポーター制度を作り、大衆芸能の楽しさとそれを支えるにぎわい座の役割を広めていただきます。</p>	
<p>[取組内容] ●にぎわいスタッフの力を活かした施設運営  ●市民サポーター始動  ●職業体験、アートマネジメント実習</p>	<p>[達成指標] □にぎわいスタッフの声を活かすために、改善提案アンケートを年2回以上実施。 ■チケット販売促進プロジェクト開始。  □アウトリーチ、鑑賞者開拓、広報活動等での活動実績5件以上。  ■学校や学生からの要望があれば積極的に受け入れを実施</p>

オ 都市戦略および他施設との連携

<p>[目指す成果]</p> <p>市内で開催されるフェスティバル事業等に積極的に参画します。にぎわい座の舞台芸術分野におけるポテンシャルを十分に発揮し、他の施設や組織と協働で事業を実施することで、横浜独自の魅力ある事業の国内外への発信に取り組みます。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p><b>都市政策・施設連携事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●横浜芸術アクション事業（音楽）への参加…再掲</li> <li>●2020年オリンピック・パラリンピック東京大会関連公演</li> <li>○「横浜ジャズプロムナード2016」運営協力</li> <li>○「TPAM—国際舞台芸術ミーティング in 横浜2016」協力</li> <li>○「横浜ダンスコレクションEX 2017」共催</li> <li>●アフターコンベンションでの来館促進</li> <li>●修学旅行や横浜観光での企画商品化</li> <li>●地域文化施設との連携…一部再掲</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p><b>都市政策・施設連携事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■横浜芸術アクション事業（音楽）開催年に合わせ、経常公演で音楽公演を開催。</li> <li>■外国人による公演モニターを実施し、企画立案に向けた情報を収集。</li> <li>■横浜ジャズプロムナードの会場運営チーフに職員を派遣。</li> <li>■TPAM参加カンパニーに対して小ホールを優先的提供し、公演運営に協力。</li> <li>■小ホールを優先提供し、公演運営に協力。</li> <li>■会議関係者に対するニーズ調査の実施。</li> <li>□旅行企画商品化3件以上。</li> <li>□個性的なロケーションでの落語会の実施など近隣施設、市内文化施設と協働事業の2事業以上。</li> </ul>

(2) 施設運営について

ア 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供

<p>[取組内容]</p> <p>① 基本的な施設の提供</p>	<p>[達成指標]</p> <p>① ■開館予定日数・時間</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 60%;">開館日数</td> <td>342日 (月2回 施設点検で休館)</td> </tr> <tr> <td>開館時間</td> <td>10時～22時</td> </tr> </table> <p>■利用料金について（平日、入場料無料時）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>10:00～12:00</td> <td>13:00～16:30</td> <td>17:30～22:00</td> </tr> <tr> <td>芸能ホール</td> <td>25,600</td> <td>44,800</td> <td>70,400</td> </tr> </table>	開館日数	342日 (月2回 施設点検で休館)	開館時間	10時～22時		10:00～12:00	13:00～16:30	17:30～22:00	芸能ホール	25,600	44,800	70,400
開館日数	342日 (月2回 施設点検で休館)												
開館時間	10時～22時												
	10:00～12:00	13:00～16:30	17:30～22:00										
芸能ホール	25,600	44,800	70,400										



	10:00 ～12:00	12:30 ～14:30	15:00 ～17:00	17:30 ～19:30	20:00 ～22:00
小ホール	7,700	7,700	7,700	9,600	9,600
練習室	1,300	1,300	1,300	1,600	1,600
制作室	900	900	900	1,100	1,100

  

<p>② 利用料金の改訂</p> <p>③ 貸館の運営体制</p> <p>④ 要望・苦情への対応</p>	<p>② ■小ホールと制作室のセット割引を設定。 ■附帯設備セット内容を変更。</p> <p>③ ■管理担当職員 1 人を貸館メイン担当とし、舞台技術者とともに公演打合や利用相談を担当。 ■見学対応は全員で実施。 ■舞台技術スタッフは芸能ホール 3 人、小ホール 1 人を基本とし、小ホールは利用状況に応じて 2 人体制として安全管理に注力。 ■舞台技術統括責任者は経験 10 年以上、残り 4 人も経験 5 年以上。</p> <p>④ ■貸館に関する要望、苦情はすべて副館長まで報告。 ■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告。</p>
--	---

イ 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用

<p>[取組内容]</p> <p>① 利用率の向上</p> <p>② 利用の促進</p> <p>③ グッズの販売</p> <p>④ 1階エントランスの活用</p>	<p>[達成指標]</p> <p>① <input type="checkbox"/> 目標利用率 芸能ホール：78% 小ホール：67% *利用可能日に対する稼働率 練習室：66% 制作室：40% *利用可能時間帯に対する稼働率</p> <p>② ■土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNS で案内。 <input type="checkbox"/> 利用希望者施設見学受け入れ 12 件以上。 <input type="checkbox"/> 平日夜間の利用促進のための夜間見学会の開催 2 回以上 <input type="checkbox"/> 練習室利用促進のため大学のダンスサークル 10 団体以上に宣伝活動実施。 <input type="checkbox"/> 練習室、制作室の紹介ツール作成 2 種以上。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> オリジナルグッズ新商品発売開始 1 種類以上。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 地域イベントのインフォメーション実施 2 回以上。</p>
---	--

⑤ 3階売店との連携	⑤ <input type="checkbox"/> のげ茶屋とのタイアップ 2回以上。
⑥ 新たな貸出プランの開始	⑥ <input type="checkbox"/> 撮影での貸出 年2回以上。 <input type="checkbox"/> 経常公演期間中の空き時間の貸出 年4件以上。
⑦ 新たな利用者サービスの開始	⑧ <input type="checkbox"/> 表方スタッフの配置サービス提供 2件以上。

ウ 組織的な施設運営

[取組内容]	[達成指標]																														
① 第三期提案の実行と課題解決を実現する適材適所の配置	<p>① ■人材の配置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>館長</td> <td>1人</td> <td>非常勤</td> </tr> <tr> <td>副館長</td> <td>1人</td> <td>課長補佐級</td> </tr> <tr> <td>チーフプロデューサー</td> <td>1人</td> <td>課長補佐級・専門職員</td> </tr> <tr> <td>チームリーダー</td> <td>1人</td> <td>係長級</td> </tr> <tr> <td>担当リーダー</td> <td>2人</td> <td>管理運営1、事業1</td> </tr> <tr> <td>職員</td> <td>4人</td> <td>管理2、事業2</td> </tr> <tr> <td>アルバイト</td> <td>2人</td> <td>3人2ポスト</td> </tr> <tr> <td>公演表方チーフ</td> <td>1人</td> <td>2人1ポスト</td> </tr> <tr> <td>にぎわいスタッフ</td> <td>30人</td> <td>最大予定人数</td> </tr> </tbody> </table>	項目	人数	備考	館長	1人	非常勤	副館長	1人	課長補佐級	チーフプロデューサー	1人	課長補佐級・専門職員	チームリーダー	1人	係長級	担当リーダー	2人	管理運営1、事業1	職員	4人	管理2、事業2	アルバイト	2人	3人2ポスト	公演表方チーフ	1人	2人1ポスト	にぎわいスタッフ	30人	最大予定人数
項目	人数	備考																													
館長	1人	非常勤																													
副館長	1人	課長補佐級																													
チーフプロデューサー	1人	課長補佐級・専門職員																													
チームリーダー	1人	係長級																													
担当リーダー	2人	管理運営1、事業1																													
職員	4人	管理2、事業2																													
アルバイト	2人	3人2ポスト																													
公演表方チーフ	1人	2人1ポスト																													
にぎわいスタッフ	30人	最大予定人数																													
② 施設の安全管理を実現するシフト配置	<p>② ■勤務体制はシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて出勤職員、人数を決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室 <ul style="list-style-type: none"> <li>A 勤務（9:30～18:15）最少2人</li> <li>B 勤務（13:15～22:00）最少2人</li> </ul> </li> <li>・受付窓口 <ul style="list-style-type: none"> <li>A 勤務（9:45～13:55）人数は状況による</li> <li>B 勤務（13:45～17:55）人数は状況による</li> <li>C 勤務（17:45～22:00）人数は状況による</li> </ul> </li> </ul>																														
③ 大衆芸能分野の専門的人材の配置及び育成	<p>③ ■大衆芸能分野のプロデューサーを配置。</p> <p>チーフプロデューサー、アシスタントプロデューサー（事業担当職員）各1人を配置し、中期的に育成。</p>																														
④ その他の人材育成、チームワーク醸成	<p>④ ■市民サポーターや地域連携推進のため、職員がファシリテーターとしての役割を發揮。</p> <p>■研修参加や資格取得を奨励。</p> <p>■特定の課題、テーマについて全職員が意見を言える環境づくり。</p>																														

エ 個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注など市の重要施策を踏まえた取組

[取組内容]	[達成指標]
① 個人情報保護・情報公開	① ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底。 ■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。
② 人権尊重	② ■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接客研修実施（年2回以上）
③ 環境への配慮	③ ■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減。 ■新たにゴミ処理有料化を開始し、ゴミの軽減と持ち帰りを促進。
④ 市内中小企業優先発注	④市内中小業者への発注率 □備品・消耗品購入 90%以上 □修繕・備品の買い替え 90%以上 □印刷物 80%以上

(3) 施設管理について

ア 施設及び設備の維持保全及び管理

[取組内容]	[達成指標]
① 施設及び設備の維持保全及び管理	① ■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保全管理及び点検の遺漏ない実施。 ■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施。 □設備の不具合による施設貸出停止ゼロ。 □来館者アンケートにおける施設快適性評価4以上。
② 小破修繕の着実な実行	② ■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施。

イ 事故防止体制・緊急時（防犯）の対応・感染症対策等衛生管理

[取組内容]	[達成指標]
① 事故防止対策、緊急時（防犯）対応	① □施設管理者有責による人身事故ゼロ。 □サービス介助士資格取得者在籍2人以上。 ■職員及び委託業者による巡回やモニタリングにより、危険、要介護者を早期に発見し、適切に対応。

<p>② 感染症対策等</p> <p>③ 緊急時の体制、連絡体制</p>	<p>■施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口のにぎわいスタッフが常駐し、開演錠及び管理を実施。</p> <p>② ■職員及び委託業者による巡回で異常を早期に発見。 ■汚物処理は感染症を念頭におき、効果的に実施。</p> <p>③ ■ローテーション勤務の中、予め当日の責任者を明確にして対応。 ■自主事業や観客の多い貸館公演の日は、出勤職員を増やして対応。</p>
--------------------------------------	--

ウ 防災に関する取組

<p>[取組内容]</p> <p>① 危機管理マニュアルの整備</p> <p>② 避難訓練</p> <p>③ 帰宅困難者及び避難者の受け入れ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>① ■現行マニュアルの検証と改訂。</p> <p>② □異なる設定で全職員参加の避難訓練実施 年2回以上。 うち1回は町内会やマンション住民にも交えて実施。</p> <p>③ ■非常時には一時滞在施設・避難受入施設と同等の対応を実施。</p>
--	--

(4) 収支について

ア 指定管理料のみに依存しない収入構造、経費削減等効率的運営の努力

<p>[取組内容]</p> <p>① 利用料金収入の確保</p> <p>② 貸館における新たな料金設定</p> <p>③ チケット受託販売</p> <p>④ 自主事業収入の増収</p> <p>⑤ 協賛金の獲得</p>	<p>[達成指標]</p> <p>① ■利用率および収入目標の達成 芸能ホール 78%、小ホール 67%、 練習室 66%、制作室 40% 収入計 20,500,000 円</p> <p>② ■ゴミ処理有料化等の新規料金設定の運用開始</p> <p>③ ■チケット受託販売手数料の改訂 □受託実績 24 公演以上</p> <p>④ ■WEB 申込みなどチケット販売方法の変更 □入場料収入 131,000,000 円達成 ■団体誘致用広報チラシ作成 □団体販売実績 月平均 8 団体以上</p> <p>⑤ □協賛 (現物協賛を含む) 3 件以上</p>
--	--

⑥ オリジナル商品開発および販売	⑥ <input type="checkbox"/> 商品売上 20 万円以上。 <input type="checkbox"/> オリジナルグッズ新商品 1 種類以上。
⑦ テレビ番組収録の誘致	⑦ <input type="checkbox"/> 経常公演のテレビ収録 年間 6 回以上
⑧ 経費削減	⑧ <input checked="" type="checkbox"/> 入札、見積もり合わせの徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 計画的なチラシ発送による郵送料の削減
⑨ コスト意識	⑨ <input checked="" type="checkbox"/> シフト調整、公演表方チーフ制スタートによる業務分担の見直し等による超過勤務削減

イ 適切な収支構造および収支バランス（別紙のとおり）

## 平成28年度 「横浜市芸術センター」 収支予算書及び報告書

## 収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	209,704,000		209,704,000		209,704,000	横浜市より
利用料金収入	20,500,000		20,500,000		20,500,000	
自主事業収入	134,074,000	0	134,074,000	0	134,074,000	
雑入	1,270,000	0	1,270,000	0	1,270,000	
印刷代	20,000		20,000		20,000	
自動販売機手数料	500,000		500,000		500,000	売店及び自動販売機売上手数料
その他(協賛金、事業負担金等)	750,000		750,000		750,000	
収入合計	365,548,000	0	365,548,000	0	365,548,000	

## 支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	97,520,000	0	97,520,000	0	97,520,000	
給与・賃金	80,319,000		80,319,000		80,319,000	館長を含む
社会保険料	8,334,000		8,334,000		8,334,000	
通勤手当	4,700,000		4,700,000		4,700,000	
健康診断費	102,000		102,000		102,000	
退職給付引当金繰入額	4,065,000		4,065,000		4,065,000	
事務費	4,261,000	0	4,261,000	0	4,261,000	
旅費	180,000		180,000		180,000	
消耗品費	1,001,000		1,001,000		1,001,000	
会議滞在費	40,000		40,000		40,000	
印刷製本費	150,000		150,000		150,000	
通信費	800,000		800,000		800,000	
使用料及び賃借料	150,000	0	150,000	0	150,000	
横浜市への支払分	150,000		150,000		150,000	
備品購入費	500,000		500,000		500,000	
図書購入費	20,000		20,000		20,000	
施設賠償責任保険	70,000		70,000		70,000	
職員等研修費	50,000		50,000		50,000	
振込手数料	150,000		150,000		150,000	
リース料	1,000,000		1,000,000		1,000,000	
手数料	100,000		100,000		100,000	
地域協力費	50,000		50,000		50,000	
事業費	119,617,000	0	119,617,000	0	119,617,000	
自主事業費	119,617,000	0	119,617,000	0	119,617,000	
管理費	114,280,000	0	114,280,000	0	114,280,000	
光熱水費	18,700,000	0	18,700,000	0	18,700,000	
電気料金	13,500,000		13,500,000		13,500,000	
ガス料金	3,500,000		3,500,000		3,500,000	
水道料金	1,700,000		1,700,000		1,700,000	
清掃費	12,000,000		12,000,000		12,000,000	
修繕費	1,580,000		1,580,000		1,580,000	
舞台技術員	24,000,000		24,000,000		24,000,000	
設備保全費	40,000,000	0	40,000,000	0	40,000,000	
専有部管理費	40,000,000		40,000,000		40,000,000	専有部施設設備管理費、警備費
共益費	18,000,000		18,000,000		18,000,000	
公租公課	6,600,000	0	6,600,000	0	6,600,000	
消費税	6,500,000		6,500,000		6,500,000	
印紙税	100,000		100,000		100,000	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	23,270,000	0	23,270,000	0	23,270,000	
本部分	23,270,000		23,270,000		23,270,000	
支出合計	365,548,000	0	365,548,000	0	365,548,000	
差引	0	0	0	0	0	